

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	令和7年度第1回松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会
2. 開催日時	令和7年6月26日(木) 午後2時から午後3時15分
3. 開催場所	松阪市下村町875番地1 松阪市子ども発達総合支援センター 多目的室1
4. 出席者氏名	(委員) 梅村恵理、○八田久子、後 建夫、谷口 壽、 ◎佐藤祐司、澄野久生、小泉明弘、加藤知孝 (◎委員長 ○副委員長) (事務局) 西浦美奈子こども局長、松田武己子ども発達総合支援センター所長、鈴木真喜同副所長、竹井順子療育支援担当監、佐波由之療育支援担当主幹、本田めぐみ育ちサポート担当主幹
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍聴者数	0人
7. 担当	松阪市下村町875番地1 松阪市健康福祉部こども局子ども発達総合支援センター 担当者：鈴木 電話：0598-30-4411 FAX：0598-30-4433 E-mail：kod.dev.c@city.matsusaka.mie.jp

事項

- 挨拶
- 松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会委員の交代について
- 議事
 - 令和6年度 経営評価シートについて
 - 財務関係(事業別経費調書)
 - 財務関係(経費投入効率調書)
 - 令和6年度 事業所評価の集計結果について
 - 保護者等からの事業所評価
 - 訪問先施設からの事業所評価
 - 令和6年度 保護者等による重要度・満足度調査の集計結果について
- その他

議事録

別紙「令和7年度第1回松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会議事録(要約)」
のとおり

令和7年度 第1回 松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会 議事録〔要約〕

日 時：令和7年6月26日（木）14:00～15:15

場 所：子ども発達総合支援センター 多目的室1

出席委員：梅村恵理、八田久子、後 建夫、谷口 壽、佐藤祐司、澄野久生、小泉明弘、加藤知孝
欠席委員：脇葉 敦

事務局：西浦美奈子こども局長、松田武己子ども発達総合支援センター所長、鈴木真喜子子ども発達総合支援センター副所長、竹井順子療育支援担当監、佐波由之育療育支援担当主幹、本田めぐみ育ちサポート担当主幹

配付資料：

- ・令和7年度 第1回松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会事項書
- ・松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会委員名簿
- ・令和6年度 経営評価シートの説明
- ・令和6年度 経営評価シート【財務関係 事業別経費調書】【資料1】
- ・令和6年度 経営評価シート【財務関係 経費投入効率調書】【資料2】
- ・令和6年度 保護者等からの事業所評価の集計結果【資料3】
- ・令和6年度訪問先施設からの事業所評価の集計結果【資料4】
- ・令和6年度 保護者等による重要度満足度調査の集計結果【資料5】

〔議事録（要約）〕

1. 挨拶

【司会】

それでは皆様、大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今から令和7年度第1回松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会を開催させていただきます。本日はご多忙のところ、当委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、お手元の事項書に基づき、進めさせていただきます。事項書「1.挨拶」につきまして、健康福祉部子ども局長西浦より、一言ご挨拶申し上げます。

【局長】

皆さま、こんにちは。松阪市健康福祉部こども局長の西浦でございます。

本日はお忙しい中、第1回松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会にご出席賜り、ありがとうございます。

さて、松阪市では、このほど「こども計画」が出来上がりました。すべての子ども・若者が、身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指しております。これからは、そういう子どもたちの声を聞き、今後の市政の取り組みに参考とさせていただきたいと思っております。

さて、当センターですが、4月の異動で、荒木所長から松田所長に代わりました。就任早々、この施設はどうですかと、新しい松田所長に尋ねたところ、子どもにとってとても開放感があり、木のぬくもりがあり、ここに行きたいという気持ちになる、わくわくする施設だとおっしゃられました。そだちの丘は障害児支援施策に重点を置くところであり、子どもにとって最高の居場所づくり、子ども目線で見ると考えることの大切さを再確認したところでございます。

本日は、令和6年度から8年度を計画期間とする「第3期経営計画書」に基づく評価の、まずは1年目として、利用者アンケート結果についてご審議を賜りたいと思っております。アンケートは、利用者の皆様や関係施設の皆様からいただける最も具体的な切実な声であり、新たな評価とともに、今後の支援に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞ皆様からの忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、開会にあたりまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2. 松阪市子ども発達総合支援センター経営評価委員会委員の交代について

- ❖ 市の人事異動により交代のあった新委員紹介
(教育委員会事務局 学校支援担当参事兼学校支援課長)
- ❖ 事務局職員自己紹介

【司会】

現在ご出席いただいております委員は、8名でございます。当委員会規則第6条第2項の規定を充足しておりますので、本日の委員会が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、事項書「3. 議事」に移らせていただきます。この後は、当委員会規則第6条により、委員長が議長となります。佐藤委員長よろしくお願いいたします。

3. 議事

【議長】

皆さん、改めましてこんにちは。本日は第1回経営評価委員会にお運びくださりまして、ありがとうございます。

議事に入ります前に、この委員会は、「審議会等会議の公開に関する指針及び運用指針の3、会議の公開の基準」に基づき、原則公開の立場をとっておりますので、よろしくお願いいたします。

それではお手元の事項書に沿って進めてまいります。事項書「3. 議事」(1)「令和6年度経営評価シート ①財務関係(事業別経営調書)」について、事務局から説明をお願いいたします。

(1) 令和6年度 評価シートについて

①財務関係(事業別経費調書)について【資料1】

【事務局】

- ❖ 【資料1】 令和6年度 経営評価シート ①財務関係(事業別経費調書)について説明。

【議長】

はい、ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたが、こちらにつきまして、ご質問等ありますでしょうか。

〔発言者なし〕

【議長】

では、続きまして、同じく議事「(1) ②財務会計（経費投入効率調書）」につきまして、事務局に説明をお願いいたします。

②財務関係（経費投入効率調書）について【資料 2】

❖【資料 2】令和 6 年度 経営評価シート②財務関係（経費投入効率調書）について説明。

【議長】

はい、ありがとうございます。ただいま、【資料 2】をもとに事務局から説明がありましたけれども、本件につきましてご質問等ございませんでしょうか。

【委員】

計数的な比率も出していただいております、前年度より大幅に数値が上がったり下がったりというところについて、事務局さんの、これはこういう解釈であるというご説明をいただいたんですが、例えば、1 ページ下の 2 つの表について。この表の中に、前年度に比べて 250%あるいは 226%という数値がありますが、これは人数が多かったわけですね、前年度に比べて。そういう理解でいいと思うんですが、③保育所等訪問支援事業の 6 月では、前年度の延人数が 8 人、実人数も 8 人で、当該年度は 18 人となっています。そうした数値が特に変わっている要因について、どのように考慮、判断されているのか。他のところでもそうですが、特に際立って変わった数値にはこういう要因があったというようなことを伺えたらと思います。

【事務局】

利用児童の延人数が、昨年度と比較して全体的に伸びているというところでございます。③保育所等訪問支援事業の 6 月について、令和 5 年度が延人数 8 人のところ、令和 6 年度は 18 人、この辺りの要因は何かということですが、すべての事業が福祉サービスでございますので、必要な時期に必要な支援をしています。全体的に 1 つ言えますことは、この①②③の通所支援事業におきましては、令和 6 年度に、ご相談があつてから開始までの順番というか、その辺りを少し見直しました。結果的に、ご相談があつてから利用開始までが、前年度と比べて少し早くなっておりますので、年度の中でも早い時期からサービスに繋がっていると言えます。個別の月での理由と言うのはなかなか明確には申し上げられませんが、比較的、年間を通じまして、前年度に比べて早い時期からサービスに繋がったと思っています。

【議長】

他にご質問はございませんでしょうか。

では、続きまして、議事(2)「令和6年度 事業所評価の集計結果について」、説明をお願いいたします。

(2) 令和6年度 事業所評価の集計結果について

①保護者等からの事業所評価 【資料3】

②訪問先施設からの事業所評価 【資料4】

【事務局】

◆【資料3】①保護者等からの事業所評価、【資料4】②訪問先施設からの事業所評価の集計結果について説明。

【議長】

ありがとうございました。ただ今、議事(2)について、①②をあわせてご説明いただきました。本件につきまして、ご質問、ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【委員】

すみません。大変いろいろとお考えいただいて、利用人数も増えているということで、ありがたいですけれど、児童が支援していただく教室に入ったときに、個々に訓練ではなくて、みんな一緒に行動するとか、そういうことにはなっていないのでしょうか。

【事務局】

訓練の内容にもよります。主に集団療育、集団で行うものと、個別療育、先生と一対一で行うものがございまして、集団療育につきましては、7~8人ほどのお子さんを一つのお部屋で療育しております。

【委員】

この資料を見せていただいておりますと、保護者の方たちが集団でいろいろ話し合いをしてみるとか、そういうのがちょっと見られないので、どうしてなのかなと思ひまして。大昔なんですけど、私の子どもが療育センターにお世話になっていたときは、どんな障がいでも一緒に先生に見ていただいていました。もちろんその先生自体は資格を持っていらっしゃる先生なんですけれども、一つの部屋で全員一緒に見ていただいて、親もそこへ一緒について、いろいろ教えていただいたりして、お昼になったらお弁当を一緒に食べて…といった一緒に行動するということが、随分よかったなと思ひているんです。ここへきて、保護者の方たちの集まりがちちょっと難しいのかなというところがあり、これは何故かなと思ひて質問させていただいております。

【事務局】

ありがとうございます。私も、昔の療育センターはずっと前から存じ上げております。何が変わったかと言いますと、施設が非常に格段にグレードアップされた。今、様々な状態のお子さんを一緒に、とおっしゃられたと思うんですが、私も、皆さんが1つの部屋に集まって、療育が提供されているところを見ておりました。施設もグレードアップされ、多くの訓練室を抱えている中で、お子さんの年齢や状態にあわせた適切な療育をということで、その中には、小集団で療育が必要だという方もみえれば、個別に療育を提供していった方がいいよねという方もみえます。そういうお子さんの状態に合わせた療育を提供できる環境が整ったということです。

そうして集団や個別の療育があるんですが、まさに委員が言われたとおり、そうすると今度は保護者さんが一緒に集う機会が一部のクラスしかないというところがありまして、その辺りがこのアンケート結果に出てくるのだと思います。先ほど来、委員会からもご助言いただきましたとおり、実際は、やはり対象児童の療育を一番に注力していかなければならないので、その辺りを少しずつ工夫しながら、保護者さんの交流に繋げていきたいと考えています。申し訳ないです。

【議長】

ありがとうございました。他にこの議事(2)につきまして、ご質問等いかがでしょうか。

【委員】

このアンケートは、紙でされているんですね。4ページの21-2に「アンケート結果を見たい。それでホームページを探したが見つからなかった」ということに対して、市のホームページに掲載しています等と回答されています。そこで、今どうされているか解りませんが、アンケート実施のとき、アンケート対象者に渡してしまうページというか、本人に残る部分と、回収する部分に分けて、本人に残る部分に、結果はこういうところに出していますよという表示をされたらいいのではないかという感想です。やはり、アンケートに答えるということは、どんな結果になったのだろうかと思う人もいますので、アンケート結果は、割と簡単にアクセスできますということを知らせるというか。

それから、これからの課題だと思いますが、このくらいの量だったら紙ベースでするのもいいかもしれませんが、最近は、ラインとか、そういうものを使って答えるケースも民間では多くなっています。段々と共通化されていると思うので、この施設だけでそういったアプリを特別に作るのは、費用の点からもなかなか難しいと思いますけれど、今後展開していくのであれば、できるだけ共通化したところで利用できるというののかなという感想を持ちました。

【事務局】

ご意見ということでしたが、少し説明をさせていただきます。このアンケートは、ほぼスマートフォンで回答いただいております。実は、先ほど委員が言われたとおり、アンケートの「ご協力をお願い」というところには、このアンケートの集計結果がどこで見られるかということ載せておりません。私も反省すべき点でありまして、ダイレクトに、結果が出ましたのでこちらへどうぞというような案内をさせていただける保護者向けのツール、ラインのようなツールも持って

おりますので、そちらで周知をしまして、そこから直接的に結果が見られるような仕組みも必要かと思っております。

【議長】

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

では、私から感想を1つとコメントを1ついたします。まず1点目は、今、委員が言われましたこととも関係するんですけども、アンケートというか社会調査の大原則の1つに、アンケート結果というのは、アンケートを実施した人のものでなく、アンケートに答えてくれた人のものであるという話があります。ですので、結果に対する誘導が適切になされていないということは、非常によろしくないと思いますから、その辺、改善をしていただければと思います。

それから2点目は、評価が悪いとか満足度が低いということに対する反応についてです。先ほどのご説明にもありましたように、次の議事(3)とも関係しますが、保護者同士の繋がりや交流というのは、毎回毎回評価が低いとか満足度が低いのですが、同時に尋ねた重要度も一番低いのです。ですから、とても大事だと思われていることに対して満足度が低い場合はちょっとまずいぞということで、本腰を入れなきゃいけないと思いますけれども、こういった重要度認識の事業、イベントであれば、職員の方、いわゆる資源というカリソースも一定ですから、あまり負担が増えない範囲で対応しているというご説明でしたけれど、それでいいと思います。満足度が低いということに対して評価も悪いと思えるかもしれないですが、あまり気にしなくてもいいんじゃないかと私は思いました。以上です。他にございませんでしょうか。

では、続きまして、議事「(3) 保護者等による重要度・満足度調査の集計結果について」、事務局からご説明をお願いします。

(3) 保護者等による重要度・満足度調査の集計結果について【資料5】

❖【資料5】保護者等による重要度・満足度調査の集計結果について説明。

【議長】

はい、ありがとうございました。ただ今、事項書「議事(3)」についてご説明いただきましたけれども、ご質問あるいはご意見はございませんでしょうか。

【委員】

説明をお聞きし、外部との繋がり、外部の保育園あるいは学校等を支援することが、重要かつ満足度も高める必要がある分野・方向なのかなと私は理解しました。そのような中で、先ほどの保育所等訪問支援のアンケートでも、1ページ目に「来ていただくことが決まっていたのでどのような流れかわからない」といった具体的な意見があります。私は具体的にどのようにやっておられるかわからないので何とも言えないんですけども、やはりもう少しコミュニケーションというか、「訪問支援に行くときにこういうことをするんです」というような連携が十分でないというか、「突然来てくれて何をやるんでしょうか」というようなところと、今回の4象限に分けた中で非常に重要な部分になったという認識とのギャップ、ずれがあるように感じました。そこで、これからの取り組み

としては、外部の施設に行ってこんなことするんですというような情報伝達、取り組み方を、もう少し工夫されるといいのかなという感じがしました。

【事務局】

ありがとうございます。まさにこれから、私どものセンターがどういうところに注力していくかということは、このグラフでも明らかになっておりますし、委員がご指摘されたことに尽きると思います。昨年度、いろいろな制度の改正もありまして、私ども児童発達支援センターとしての役割が具体的に明示された中で、これから私ども公共の施設は、やはり地域の対象児童さんの支援を全体的に底上げしていくために頑張っていかなければならないところであり、当然、地域の支援体制の底上げは、これから取り組んでいくことだと思っております。保育所等訪問支援事業として、保護者の方からの要請により訪問する事業もしておりますし、また、保育園から依頼を受けて、私どもの専門職員が出向きまして、その方々に支援するという事業もあり、いろいろな方法でアクセスしているところです。先ほどのアンケートにもあったとおり、内容が十分でないと感じられている施設さんにも、支援の仕方や内容について、相手の負担にならず、そしていい効果が生まれるよう、少しずつ改善を重ねてやっていければと考えています。

【議長】

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

では、私から1点、コメントというか、感想に近いんですけど、この【資料5】の8ページ以降のグラフを描いて分析されている結果は、非常にある意味、面白いなと思います。どういうふうに面白いかというと、色々な市民アンケートとか社会調査を見ていると、こういう重要度と満足度を組み合わせて、その事業を評価するとか、行政の活動を眺めるようなことはよくされているんですけど、横軸に満足度を、縦軸に重要度をとると、ちょうど銀杏の葉っぱみたいな形に分布することが多い。つまり、重要度が高いものに対しては、評価が割れるんですね。満足度がすごく高い人もいれば低い人もいる。で、重要度が低いものはだんだん無感覚になってくるので、満足度もそんなにばらつかないんです。今回、この4つのグラフは、全部右肩上がりの、統計でいうところの相関係数がかかなり高いようなグラフになっていて、ということは、【資料5】の7ページにあるようなABC D、4つの領域に分割したときに、BとCが多くなるということですよ。で、我々として一番気をつけなくてはいけないのは、Aにどんな事業・サービス・イベントがあるのかということだと思います。結果として、児童発達支援では3つ、放課後デイでは2つ、等々、いくつかそのAという領域に事業があるんですが、せっかく少ない数ですので、資源は限り、人も金も両方とも限りがありますから、その限られた資源をどこに重点的に配分するのかということを考える際、是非参考にさせていただければと思います。

加えてもう1つ。満足度というのは、その保護者等の満足度ですから、それは真摯に受けとめるべきだと思うんですけど、重要度については、保護者等を感じる重要度も大事だけれども、やはりこちらの専門性を持った立場で、これは重要度が高いとか低いとか、そういう判断をするべきだと思うんです。ですから、専門家としての知見といいましようか、それを加味した重要な判断というものもあって然るべきだと思いました。

最後に1つ質問です。Cの領域に分布している事業は、資料に「見直し、検討していく必要あり」と書いていただいておりますが、現状、Cの領域にあるもので、見直したり検討したり、あるいはやめたりということが出来る事業はあるのかなのか、いかがでしょうか。

【事務局】

行政の悪いところかもしれませんが、この結果が出たからやめるというのはなかなか難しく、現実的には縮小を考えていくというところで、今すぐにやめるということとはございません。

【議長】

はい、ありがとうございます。まあそうなんだろうと思ってお尋ねしたところもあるんですけど、「これは重要度が低いし満足度も低いから、やめます」とやめていただけだと、おそらくよろしくないと思うんです。けれど、例えば今3つ行っているサービスを2つに統合して、完全にやめるのではなく活かしつつ、統廃合しますというような対応であれば、利用者の方のご理解も得られるのかなと思いますので、「あれもこれも」が出来ずに、「あれかこれか」という状況においては有効かと思います。私からは以上です。

他に、議事(3)につきまして、ご質問ご意見ございませんでしょうか。

〔発言者なし〕

はい、ありがとうございます。それでは、本日予定しておりました議事はこれですべて終了です。残りの進行につきましては、事務局、よろしく願いいたします。委員の皆さんにおかれましては、議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。

4. その他

【司会】

ありがとうございます。長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございます。また議事進行につきましてもご協力いただきまして重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。

それでは事項書「4. その他」でございます。次回、令和7年度第2回経営評価委員会につきましては、サービス提供についての、今度は「職員による自己評価の集計結果」、「自己評価総括表」、及び「事業関係の評価シート」等を議題としております。後日事務局より日程調整しますので、またご協力いただきますようお願いいたします。経営評価委員会の日程等につきましては以上でございます。

それでは、他に何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

〔発言者なし〕

【司会】

それでは、これをもちまして第1回経営評価委員会を終了いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。お気をつけてお帰りください。